

山武農林振興センター 振興普及だより

山武農林振興センター

山武の



山武農業改良普及事業協議会

〒283-0006 東金市東新宿1-11

☎0475-54-0226 FAX 52-7914

ホームページ <http://www.pref.chiba.jp/apcenter/sanbu/>



園主から説明を受けるお助け隊

作業はそのまま!!!
「いちご作業お助け隊」大活躍

農村地域には、近隣や仲間同士で助け合う「結い」があり、ハウスのビニル張りや定植などの共同作業も労力補完の一つとして行われています。

成東観光苺組合婦人部では、収穫時期にいちごのつみ取りが集中してしまい、管理不足や収穫しきれなくなる実態があり、その作業を補う労力補完に取り組み始めました。

いちご農家と労力提供者が手を組み、労力と現物（いちご）を交換するシステムです。労力を提供する「いちご作業お助け隊」は5人一組で、腐りや傷、過熟のいちごを取り除く作業を行っています。

地域の人で地元のいちご作業を支えるシステムで、強力な助っ人が誕生しました。

大網白里町

大網白里町農業研究会が発足

今年3月、若い農業後継者による新組織「大網白里町農業研究会」が発足しました。(旧)町農業後継者連絡協議会の解散に伴い、新たなメンバーも加わって28名での出発です。

農業についての研修や提言の他、消費者との交流や食育活動に共同で取り組み、「これからの町農業」を考えた活動をしていきます。



消費者との交流会



秋のイモ掘り準備

今年度の活動計画では、保育園児によるサツマイモの収穫・焼き芋体験や、消費者に会員の生産ほ場を見学してもらうファーム・ハイク、学校給食への食材提供などを予定しています。

「農家以外の住民にもこの会に入ってもらい、農業にふれあう場をとおして、人の輪を広げて行きたい」と会長の浅岡さんは希望を語っています。

毎週開かれている朝市や遊楽市等で直売をしている会員も多く、地域農業活性化をリードして行く組織として、今後の発展が期待されています。

各地の話

芝山町

カキと一緒に田植え!

芝山町東小学校は、毎年児童が水稲、落花生、サツマイモなどの栽培体験学習をしています。

この学校給食田事業に、芝山米のPR活動を行っている稲作農家グループ「芝山お米ネットワーク」が協力し、新たな取り組みを行いました。

5月30日に、全校児童80名が参加し、学校前のどかな里山風景の中、お米ネットワークの



はじめての田植え

生産者や北の湖部屋の北桜関他とともに田植えを行いました。

子供達は、初めて見る力士にはしゃぎつつ、生産者に田植えのやり方や、米作りの様々な話を教わりながら、6aの田んぼに古代米の苗を植え付けました。

東京にすんでいる北桜関も初めての農業体験を大いに楽しんでいました。

東小学校の校長は、「地元の生産者の方々の知恵と技術を子供達に伝えてもらう場を設けていきたい」と話しており、今後このような体験学習が続くことが期待されます。



お米ネットワークのメンバーたち

「品目横断的経営安定対策」

農林水産省は、「全ての農業者に、一律的な支援」をしてきたのを、「意欲と能力のある担い手に限定」するやり方に、農政の基本を転換しました。

新施策の柱ともいえる「品目横断的経営安定対策」は、これからの水田経営農家にとって大きな影響をもたらす施策です。

そこで、この対策について、わかりやすく説明します。

Ⅱ 支援の内容はⅡⅡ

「生産条件不利補正対策」と「収入減少影響緩和対策」の2つの支援があります。

①「生産条件不利補正対策」は、外国との生産条件格差から生じる不利を補う対策です。大豆と麦類が対象となり、小麦と大豆両方を栽培した場合、10 aあたり4万円〜5万円程度が受給できます。ただし、過去の生産実績が勘案されますので、新規に栽培を始める方は、受給できる額が少なくなります。

②「収入減少影響緩和対策」は、販売価格や収量の低下による収入減少を補てんする対策です。対象は、米、大豆、小麦他2品目です。補てん金は、生産者1対国3の割合で拠出・準備されます。大豆や小麦を栽培していなくても、米だけでも加入できます。

ⅡⅡ 加入できるのはⅡⅡ

①「経営規模が4 ha以上の認定農業者」又は、「20 ha以上の集落営農」です。

②米の生産調整の達成が必要で、加工米で生産調整を達成する方も加入できます。

(次号につづく)

経営規模として、計算に加えることができる農地

合計面積 4ha以上	権限農地	農地法などに基づく、所有権又は賃借権を有する農地(田と畑)
	作業受託	①主な基幹作業を受託し、②販売名義があり、③販売収入の処分権がある、農地(田と畑)

農産加工販売へのステップ 成功のためのカレンダーを作る

食の外部化の進む現在、農産物直売所の売上げの2割を農産加工品が占めています。

また、このような農産加工や直売に取り組む人は、年々増え、現在千葉県内で、300経営体が、組織または個人で活動しています。

ここでは、これから加工販売を始めるためのステップをシリーズで紹介します。

成功のポイントをまとめてみました。

- ① 加工販売の目的と目標を持っている。
- ② こだわった加工品をつくっている。
- ③ 製品の価値と自信にみあった価格がつけられている。
- ④ 包装形態とネーミングの付け方。
- ⑤ 経営記帳と管理ができる。
- ⑥ 長期計画に基づき、年間計画を立て経営発展をめざしている。
- ⑦ 良きライバル、共に伸びる仲間がいる。

それぞれの詳細については、このシリーズをとおして紹介します。

今回は「目的と目標」についてです。

① 加工販売の目的と目標を立てよう。

まずは、新たな事業に取り組むと決心し、自分なりの目的と目標を決めます。

次に、収入・生きがい・交流など、効果として何を得たいかを決め、目標を家族や仲間と共有化しておきます。

なお、農林振興センターでは、9月から新規に加工販売に取り組む方を対象に研修会を予定しています。





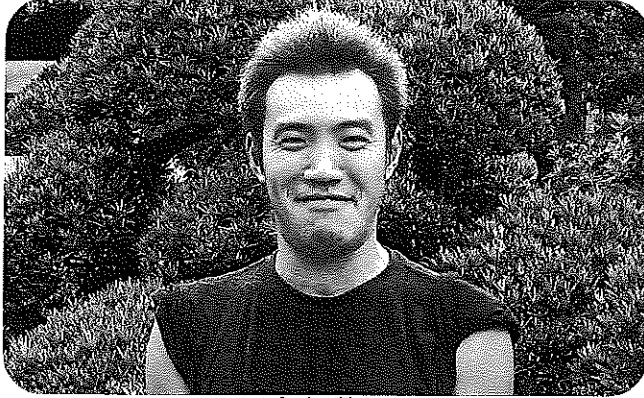
産地でがんばっています

食べる人に優しい農業をめざして

今回は東金市田間で水稲25haと施設いちご20aを経営している田中和明さん(27歳)を紹介いたします。

水稲でも、ちばエコ栽培に取り組む、環境にやさしい農業と安心安全農産物としての有利販売に努力しています。

田中さんは大卒を卒業後に就農し、自分で考え作業できることをめざして家族経営協定を締結しました。また、農林振興センターで開催している経営体育成セミナーに3年間参加し、天敵や生物農薬資材等を活用したいちごのちばエコ栽培に取り組み、その成果を発表しました。



田中和明さん

今後、水稲は規模拡大を考えています。ラジコンヘリコプターの免許を取得し、地域防除の作業受託など担い手としての活躍も期待されています。

「食べる人のことを考えた減農薬につとめたい」とちばエコ栽培を活かした、生産・販売をめざしています。



旬の味

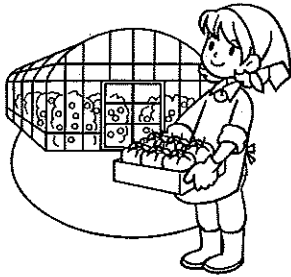
トマトドレッシング

管内では、117haのトマト(ミニトマト含む)が作付けされ、県内でも有数の産地です。中でも九十九里町では5月～7月に収穫できる半促成栽培が盛んです。地元産物のPRにとアグリライフ九十九里で研究した美味しいトマトドレッシングの作り方を紹介します。

トマトドレッシング

材料

- トマト……………中玉7個
- にんにく……………5片
- 酢……………大さじ4
- 塩……………小さじ3
- こしょう……………少々
- サラダオイル……………大さじ4



作り方

- ① トマトは湯むきし、たねを取りみじん切りにする。
- ② にんにくは、皮をむきみじん切りにする。
- ③ ボールにaの調味料を入れ、みじん切りにしたトマト、にんにくを合わせる。
- ④ スライスしたタマネギ、輪切りのトマトを皿にもり、ドレッシングをかけていただく。

※生野菜はもちろん、豆腐、海藻などにかけてもおいしいです。